千葉県八千代市

市内遺跡群発掘調査報告

昭和63年度

八千代市教育委員会

目　　次

例　言

1.　発掘調査に至る経過……3

2.　遺跡調査の概要

a.　下高野新山遺跡……4

b.　菅地ノ台遺跡……7

c.　菅地ノ台古墳……9・10

d.　菅地ノ台遺跡……17

挿図・図版目次

第1図　八千代市全域図……2

第2図　下高野新山遺跡実測図……5

第3図　出土遺物実測図……6

第4図　菅地ノ台遺跡実測図……8

第5図　菅地ノ台古墳墳丘測量図……11・12

第6図　遺構実測図……13

第7図　出土遺物実測図……14

第8図　墳丘土層断面図……15・16

第9図　菅地ノ台遺跡実測図……18

図版1　下高野新山遺跡

図版2　菅地ノ台遺跡

図版3　菅地ノ台古墳

図版4　菅地ノ台古墳

例　　言

1．本書は、千葉県八千代市下高野553番地に所在する下高野新山遺跡と市内萱田442番地の一部に所在する菅地ノ台遺跡の確認調査及び一部本調査、萱田439－4番地に所在する菅地ノ台古墳の本調査に係る調査報告書である。

2．調査は、昭和63年度国庫補助事業として計画、実施した。尚、下高野新山遺跡は、隣接地区において昭和61年8月～同年11月に亘って確認及び本調査を実施している。(事業者負担)
また菅地ノ台古墳は、昭和62年12月に周溝の一部について調査を行っている。

3．発掘調査は、昭和63年12月12日～同年12月15日にかけて下高野新山遺跡、12月16日～12月24日及び平成元年3月16日～3月21日にかけて菅地ノ台遺跡、12月26日～平成元年3月11日にかけて菅地ノ台古墳について各々実施した。

4．土器については、黒色処理を施したものを墨アミで、繊維を含む土器の断面にはドットスクリーンで、須恵器は断面を塗りつぶして各々表示した。

5．本書中においてGr、Trと表記したものは、それぞれグリッド、トレンチと読むものとする。

6．本書の出土遺物の実測、写真撮影は、森が行った。

7．本書の執筆及び編集は、森が行った。

調査組織

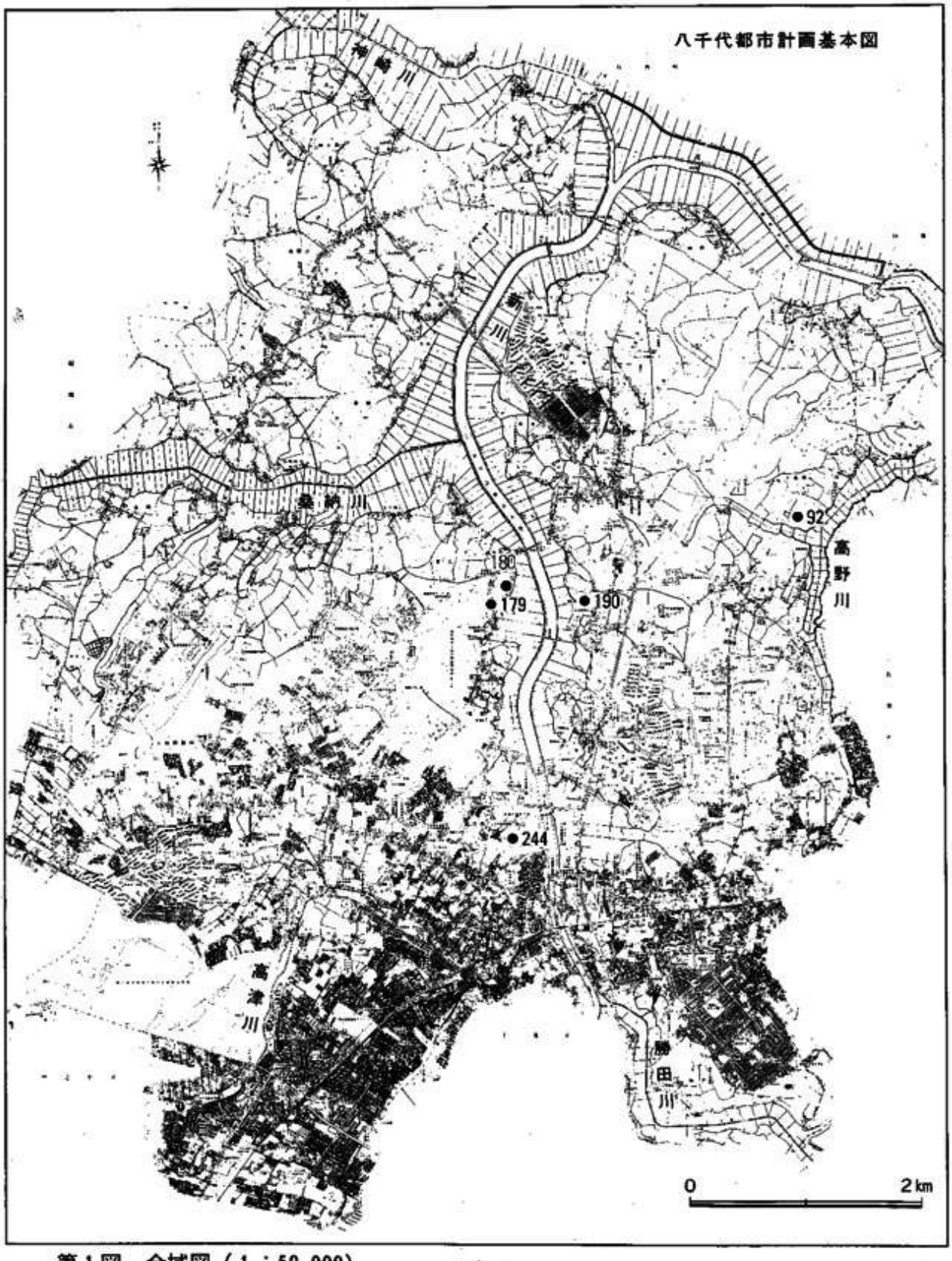
調査主体者　大熊章一（八千代市教育委員会教育長）

事　務　局　伊藤勇毅（八千代市教育委員会社会教育課長）
菊島一利（　〃　文化係長）
木原善和（　〃　主事）
秋山利光（　〃　主事）
蕨　茂美（　〃　主事）
小平浩子（　〃　主事）

調査担当者　森　竜哉（　〃　主事）

作　業　員　深山武夫・花島あやめ・笠川美智・長岡スジ・長岡まさ子・笠川重・金子はる・橋本富四郎・長岡宜雄・深沢はる・斉藤勝子・桜井とし子・斉藤俊江・花島のぶ・笠川明子・花島トキ・佐久間高・米元タミ・近藤重夫・永野友市・泉水ふさ・山中文一・大鍾衣子・牧野四郎・永野むつ・吉橋勇吉・宮島菊江・山中こと・熊谷八郎・斉藤一夫・杉野きぬ・牧野定吉

整　理　員　石井克利・古川圭介・富永貴彦・篠田慶太



第1図　全域図（1：50,000）

1．発掘調査に至る経過（第1図）

下高野新山遺跡は、昭和63年7月に心和会八千代病院理事長荒井元吉氏より文化財の所在の有無にかかる照会を受けた。下高野字新山553番地の1408㎡について病院の増設を予定しているとの事であり、これを受けて市教育委員会では、事前踏査を行った。現況は山林であったが、当該地の隣接地において昭和61年八千代市遺跡調査会により発掘調査が実施され炉穴等遺構が検出されているので遺構の広がりが照会地に及び可能性が十分に考えられた。同年9月に埋蔵文化財が所在する旨を相手方に通知した。その後二者協議により現地での変更がむずかしい点から確認調査を実施することとなった。現地の伐採及び下草刈り、基準点の設定等の準備が整い昭和63年12月12日～同年12月15日に亘り確認調査を実施した。（分布地図No.92）

菅地ノ台遺跡は、昭和63年7月に長岡長信氏より文化財の所在について照会が提出された。黄田字菅地ノ台442番地の991㎡について農地造成を予定しているとの事である。照会地は財千葉県文化財センターにより調査された権現後遺跡に隣接しており遺構の可能性が十分考慮された。現況は、荒蕪地であったため3ポイントにおいて試掘を実施した。遺構は確認できなかったが、各地点より土師器（古墳時代、平安時代）の出土が見られ、土層の堆積も自然状態で良好だったため埋蔵文化財が所在する旨を相手方に通知した。その後二者協議により、農地造成がやむを得ない点から確認調査を実施することとなった。現地の下草刈りをお願いし準備が整ったので昭和63年12月16日～同年12月24日に亘り確認調査を実施した。（分布地図No.179）

菅地ノ台古墳は、昨年度昭和62年12月に、金子米蔵氏の自宅建設にかかる経緯により周溝の一部について調査を行った。その際の協議により次年度に墳丘部分及び周溝についての調査を実施する形で両者の合意が成立していたため今年度の調査となった。地主である金子善一氏との協議において墳丘マウンドの撤去、周溝全掘を調査内容とした。主体部については、以前隣接した畑部分より直刀が2振り、発見された経緯がありそうした点を考慮し、検出された場合には、翌年度調査を行うことにした。墳丘部分の伐採をお願いし昭和63年12月26日～平成元年3月11日に亘り調査を実施した。（分布地図No.180）

先に確認調査を行った菅地ノ台遺跡は、その一部について本調査を平成元年3月16日～同年3月21日まで実施し、住居跡2軒を完掘した。

以上四遺跡が国庫補助事業の対象となり得るか県教育庁文化課に問い合わせ内諾を受けたのち各々について協議を進めた。予算は、国庫補助事業として国より200万円、県より100万円を得て総額400万円の範囲において計画実行した。

2．遺跡調査の概要

a．下高野新山遺跡（第2・3図　図版1）

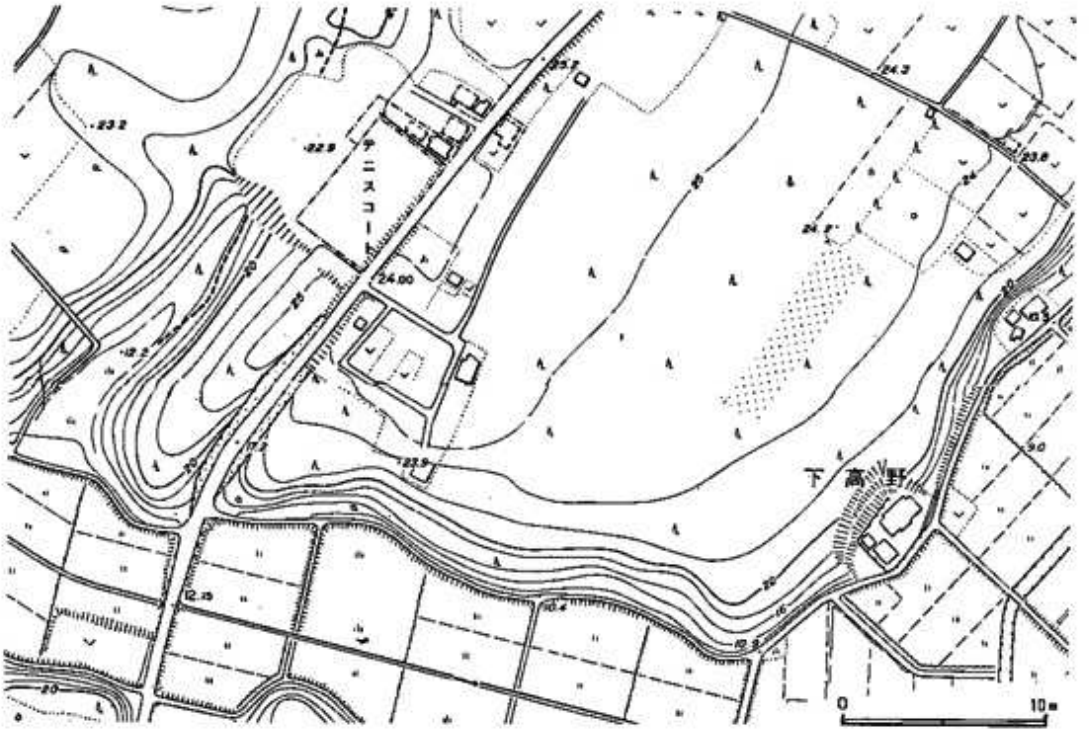
遺跡の立地　下高野新山遺跡（分布地図№92）は、八千代市北部を西流する新川に至る小支谷の最奥部に近い標高22～24ｍの台地上に位置する。本遺跡は前述したが、昭和61年８月～11月にかけて確認及び本調査を実施している。その成果は、炉穴（縄文早期）16口、地下式坑（中世？）４基、土壙（時期不明）２口、古墳（周溝有）１基である。その他か確認調査のみで保存されている遺構では方形周溝状遺構が１基確認されている。(注１)

調査の方法と経過　調査は、前回の調査との互換性に留意して公共座標系によるグリッド、トレンチ法をとった。20ｍ方眼を大グリッドとし、そのグリッド内に２ｍ×４ｍの基本トレンチを配し遺構確認を行った（第２図(２)）。経過は、昭和63年12月10日～12月15日の期間内をもって行った。10日器材搬入トレンチ設定、12日～15日トレンチの掘り下げ、拡張トレンチの設定、掘り下げ、セクション等実測図の作成を行い全作業を終了した。遺構確認は、Ⅲ層上面において遺物、焼土、硬化面等変化の有無を確認したのちⅣ層（ソフトローム層）まで掘り下げた。

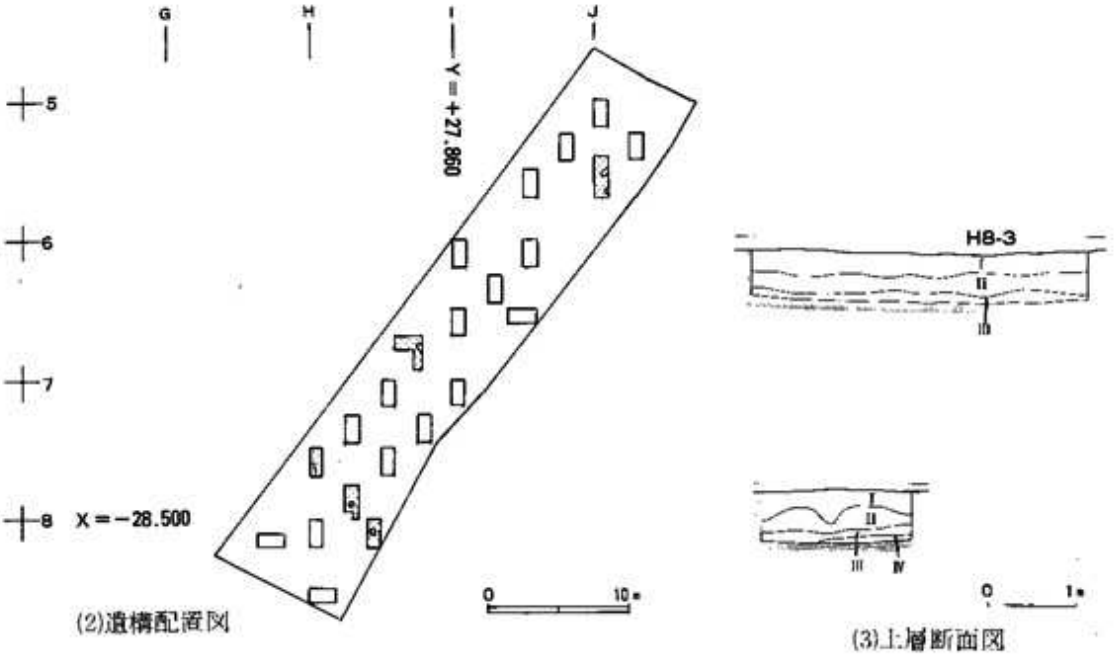
調査の概要　本遺跡の層序は、第Ⅰ層褐色土層（表土層　根による侵食層）、第Ⅱ層黒褐色土層（粘性あまりなくパサパサする。ローム粒斑点状に含む。）、第Ⅲ層褐色土層(ソフトローム漸移層)、第Ⅳ層（立川ローム層最上部）である。遺構は、住居跡１軒、ピット５口が確認された。住居跡は時期不明であるが、ピット５口の内３口については、覆土中より縄文早期（茅山式期）土器片が出土している（H8-5Gr、H7-8Gr、H6-12Gr)。この内 H7-8Gr は覆土に焼土が含まれているので炉穴としての可能性も考えられる。掘り込みはいずれもⅡ層中である。J5-3Gr 確認のピット２口については、出土遺物がなく時期不明である。この遺跡内出土遺物は、縄文早期を中心とした時期であるが、位置的には、H6-12Gr 付近より南側部分で多く出土している。また層位は、Ⅱ層中位より出始め下位からⅢ層上面での出土が顕著である。以下個々の遺物について記す。本遺跡では、縄文早期条痕文系土器群を中心としているが、１は撚糸文系の口唇部である。２～11は、条痕文系土器群を一括したが、この内２～７は、隆線と沈線により構成された一群である。８は、粗い条痕を施すもので、本遺跡ではこのタイプが主体的である。９は、縄文を施文するもので、多量の繊維を含んでいる。12は、河原石を加工して石斧としたものと考えられるが、一面は、自然面を残している。

小　結　本遺跡では、遺物の出土量に相違して遺構の密度が希薄であった。唯だ主体となる住居群、キャンプ地が近くに存在することは十分考えられ、今後解明していくこととなろう。

注１　昭和62年度埋蔵文化財発掘調査抄報

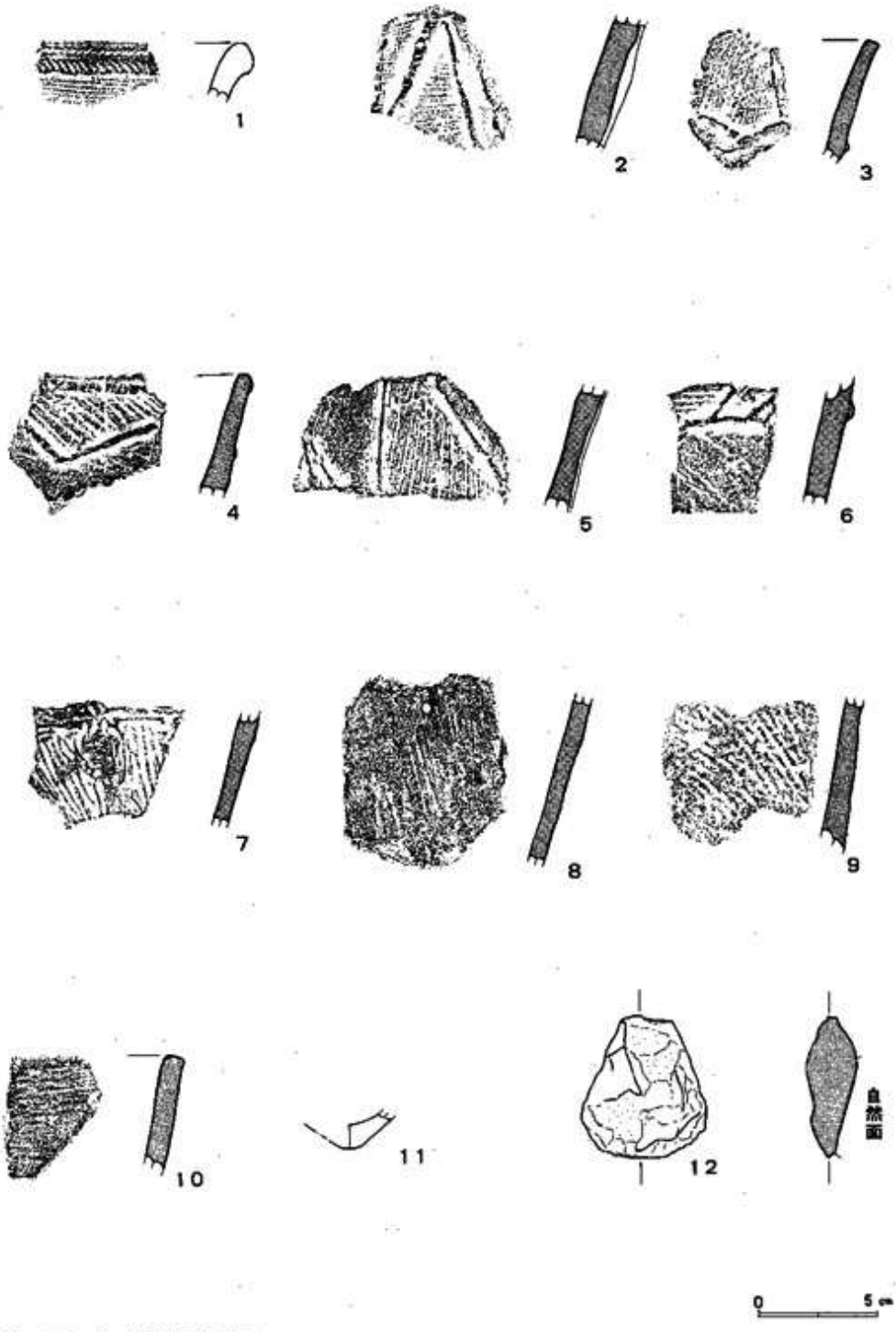


(1)地形図　　八千代市都市図を転載加筆



(2)遺構配置図　　(3)土層断面図

第２図　下高野新山遺跡実測図



第３図　出土遺物実測図

b．菅地ノ台遺跡（第４図　図版２）

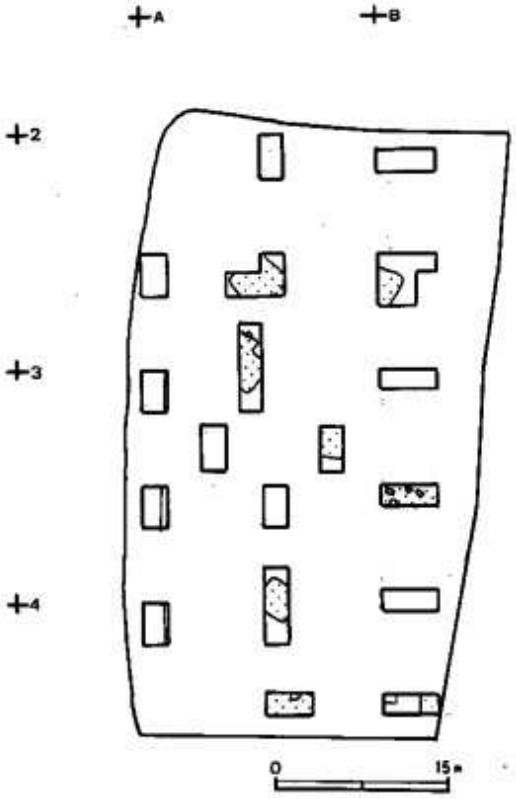
遺跡の立地　菅地ノ台遺跡（分布地図No.179）は、新川西岸の標高約22ｍの台地縁辺部に位置する。隣接地区は、萱田地区土地区画整理事業に伴う事前調査が(財)千葉県文化財センターによって実施されている。権現後遺跡では、弥生時代後期、歴史時代の住居跡を中心として各時代に亘って遺構が確認されている（注１）。また同じ台地上のヲサル山遺跡においては、弥生終末期～古墳時代初頭の住居跡を中心として縄文時代、歴史時代の遺構が確認されている（注２）。

調査の方法と経過　本遺跡は、隣接地区の知見から集落跡（奈良・平安時代主体）としての性格が強いと考えられたので、おおむね南北方向に調査区を設定し、20ｍ方眼を大グリッドとし、10ｍピッチで２ｍ×４ｍのトレンチを設定して遺構確認を行った（第４図）。確認面は、当初Ⅲ層上面において行い、変化がなければⅤ層（立川ソフトローム面）まで掘り下げて精査した。調査は、昭和63年12月16日～12月24日に亘って実施した。16日トレンチ設定後掘り下げ、17日～21日基本トレンチの掘り下げ、22日～24日トレンチ拡張、サブトレンチ掘り下げ、実測図作製を行い全調査を終了した。

調査の概要　本遺跡の層序は、第Ⅰ層暗褐色土層（表土層）、第Ⅱ層黒褐色土層（ローム粒少量含み粘性あまりないが全体的にしまる。）、第Ⅲ層暗褐色土層（ローム粒、黒色土粒混合層粘性若干あり、しまっている。）第Ⅳ層褐色土層（ソフトローム漸移層）、第Ⅴ層（立川ソフトローム層）となっている。遺物は、Ⅱ層中より出始めⅡ層最下部からの出土が多い。Ⅲ層中からの出土は極くまれである。時期は、平安時代の土師器、須恵器が主体であるが、明らかに遺構に伴わない状態で遺物が出土した場合があった。遺構は、平安時代住居跡７軒、古墳時代中期住居跡１軒、ピット５口、溝状遺構１条を確認した。住居跡の規模は、平安時代のもので３～４ｍ、古墳時代中期のもので３ｍ程度と小規模である。カマドは、A3-9Gr において確認しているが、砂質白色土を主体として白色粘土が少量混じった状況である。煙道部は、三角形を呈している。住居跡の内焼土、炭化材が確認されているものが、A4-9Gr、A3-9Gr、B2-3Gr の３カ所である。焼失家屋の可能性も考えられる。ピットは、B3-3Gr において確認した４口については、各々２口ずつ掘立て柱建物跡としての可能性が考えられる。ピットの規模は、小さいもので40cm、大きなもので90cm程度の円形を呈している。遺物は、小破片が多いが、須恵器では甕、坏形などの器形があり、土師器では、坏、甕、蓋形等が見られる。坏、甕共ロクロ使用、未使用のものがある。ここでは土師器蓋のつまみ部、くすべ焼成甕体部片、坏(?)底部に墨書したものを掲げる。

小　結　本遺跡は、平安時代を中心とした集落跡として位置づけられるが、隣接した権現後遺跡との包括的な視野から考えていかなければならないと思う。

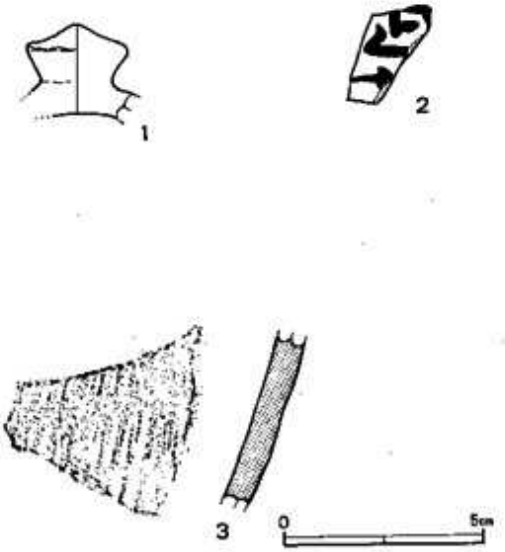
注１　阪田正一他 八千代市権現後遺跡 1984 住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 (財)千葉県文化財センター
　　２　阪田正一他 八千代市ヲサル山遺跡 1986 住宅・都市整備公団首都圏都市開発本部 (財)千葉県文化財センター



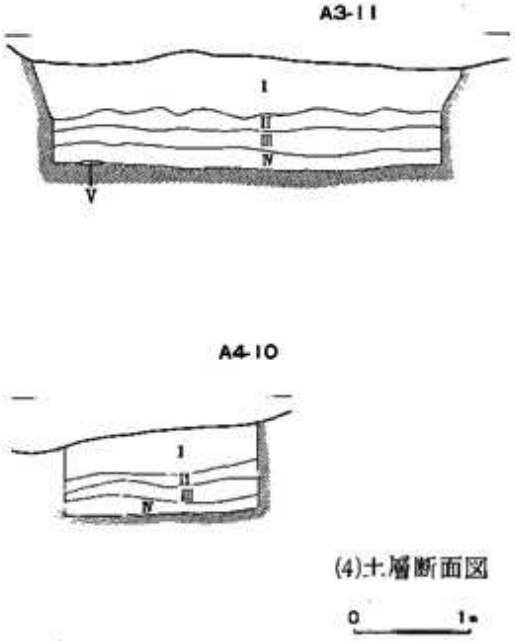
(1)遺構配置図

(2)地形図

八千代市都市図　15－5を転載加筆



(3)遺物実測図



(4)土層断面図

第4図　菅地ノ台遺跡実測図

c．菅地ノ台古墳（第5、6、7、8図　図版3、4）

遺跡の立地　本古墳（分布地図No.180)は、南流する新川西岸に面する台地縁辺部に位置する。標高は22～24mである。同じ新川西岸においては、上ノ山古墳(No.244）、対岸縁辺部には、七百余所神社古墳(No.190）等が所在する。本古墳は、分布地図上においては、単独古墳となっているが、2基ないしそれ以上によって構成されるらしい。地権者である金子善一氏の話によると、現在所在する古墳から20～30m隔てた畑部分より刀が2振り出土したということである。墳丘封土は、全く削平されてないが畑部分の微地形によっても若干高くなっているように見える。

調査の方法と経過　調査は、昨年度周溝の存在を確認しているので、周溝の範囲を確定する目的で5、6、7、Trを設定した。また南北ライン、東西ラインに土層観察用土手を設定し四分割した各地区を1～4区として遺物取り上げの目安とした。各トレンチにおいて周溝確認後、各地区の現表土の掘り下げを行って周溝プラン及び主体部等の確認を行う。周溝、主体部等調査後、墳丘封土の掘り下げを行う。1・3区を人力で行い、2・4区は重機を使用した。段階としては、旧表土面において状況を確認し、最終的には、ソフトローム上面まで掘り下げを行った。経過は、昭和63年12月26日～同64年1月6日まで5～7Tr掘り下げ、昭和64年1月7日～平成元年1月16日にかけて1・2区墳丘面現表土掘り下げ、1月17日～19日3・4区墳丘面現表土掘り下げ、21日～25日1～4区墳丘面、周溝プラン確認のため精査、26日～30日1区周溝掘り下げ、31日～2月3日2区周溝掘り下げ、4・6日2号土坑掘り下げ、9日～15日3・4区周溝掘り下げ、16日～22日1区墳丘封土掘り下げ、22・23日1・4区1号溝状遺構掘り下げ、27日～3月1日2～4区墳丘封土掘り下げ（旧表土面まで）、3月2～4日南北及び東西セクションライン封土掘り下げ、6～9日セクション実測及びセクション用土手はずし、10、11日バックホーによるソフトローム層での遺構確認及び調査、器材撤収をもって作業を終了した。

調査の概要　本古墳の層序については、第8図に詳しいが、基本的には、Ⅰ層暗褐色土層（現表土層）Ⅱ層黒褐色土層（旧表土層　歴史時代・縄文時代土器包含層）Ⅲ層暗褐色土層　Ⅳ層褐色土層（新規テフラ層　縄文早・前期遺物包含層）Ⅴ層暗褐色土層　Ⅵ層暗黄褐色土層（ソフトローム漸移層）　Ⅶ層暗黄褐色土層（立川ソフトローム層）となる。縄文時代の遺物包含層は、Ⅱ層下部及びⅤ層中に於いても確認されている。今回の調査において検出した遺構は、古墳1基時期不明溝状遺構2条、平安時代土坑1口、縄文前期ピット1口である。

(1)古　墳

①墳丘の構築（第8図）　本古墳における構築法は、旧地表面の整地後、周辺部のカッティング及び周溝掘削の排土を墳丘封土としたものであり、地形を利用した方法によって構築されている。当初の地表面の整地は、十字セクションからの観察によれば凡そ23.3mを基準として整地面

とされており堅く踏みしめられていた。周辺部のカッティングは、各々基準点から北側では約4.8m、西側で8m程度（想定）、東側で6.4mを測る。南側はカクランにより不明である。何れもII層～V層を斜めに削っている。封土は、四方向の土層断面からは、若干積み上げに異なった部分もあるが、おおむね褐色土と暗褐色土の互層とすることができる。暗褐色土は、非常によくしまっており土の流失を考慮しているのではないだろうか。

②周溝（第5図）　周溝は、昨年度の調査において確認しており、今年度の調査によって全周することが確かめられた。溝断面はおおむね緩やかな逆梯形状を呈しているが、4区においては墳丘側の一部と平坦面側の全体について傾斜の強い立ちあがりである。確認面は、IV層上面で幅2.4m～2.8m、深さ0.3～0.5mを測る。遺存状態は、1区においては、平坦面側の立ち上がりが耕作によるカクランによって全体的に不明である。2区では概ね良好であるが、一部2号溝により切られている。4区では、1号溝によって墳丘側の立ち上がりが一部切られる。溝覆土は、黒褐色土を主体とする。下層において焼土層が確認されている。周溝内からの遺物は、400点以上であるが、そのほとんどが焼土層上であり、本遺構に伴うものではないと考えられる。

③遺物集中部分（第7図　図版3・4）　W10m地点を中心として須恵器大甕が破砕された状態で出土した。ここは、周溝際の墳丘端部にあたり古墳築造に係る意図的な投棄と考えたい。

④埋葬施設　最終的に本古墳に係る埋葬施設は確認することはできなかった。当初墳丘精査時点暗褐色粘土が散った状態で確認されたため、墳頂主体部を想定し墳丘封土から旧地表面（II層）上面を目安として精査を行った。封土中において一部暗褐色粘土が確認されたが、明確な掘り込みが見られなかったので、III層上面まで掘りさげた。この精査によっても主体部は確認できなかった。ただ粘土は、封土中に通有なものではなく築造時に容易に入手できないことから、粘土を使用した施設が存在した可能性もある。なお墳丘全長は、周溝を含め22.8mを計測する。

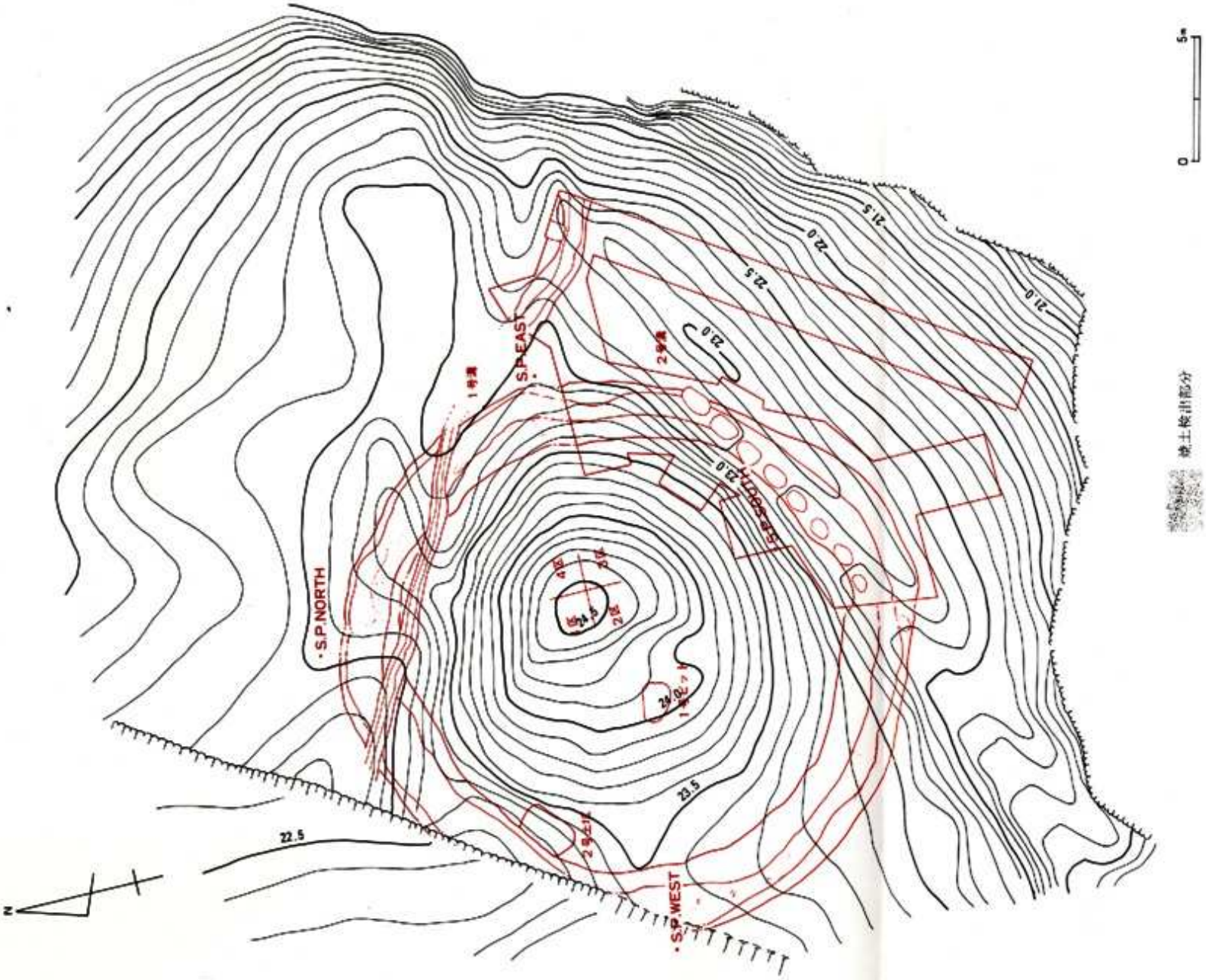
(2)2号土坑（第6図）

1区墳丘精査時に確認したもので、長径2.45m、短径1.4mの楕円状を呈する。底面は、段状を呈する。深さは、約1.0mを計測する。覆土は、黒褐色土層と褐色土層の二層で遺物は黒褐色土層からの出土が多い。

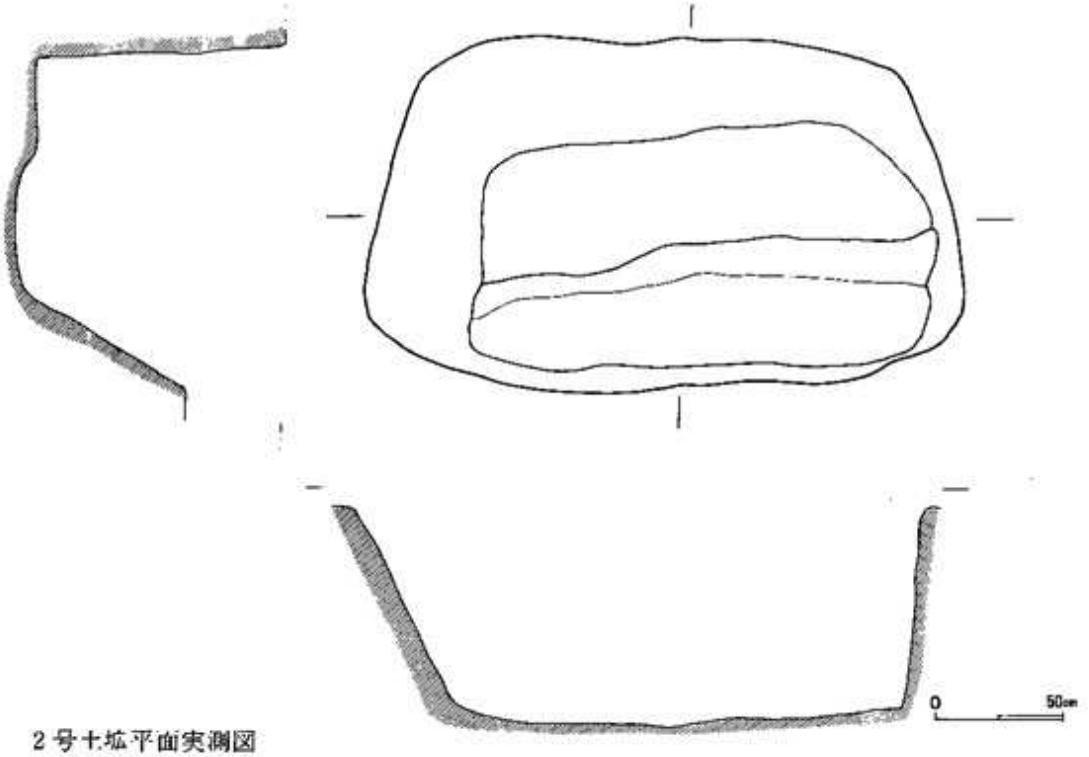
(3)その他の遺構及び遺物（第5、6、7図）

1号ピットは、墳丘下V層中において確認した遺構で、1.6×1.1mの不整形を呈する。深さは、0.25～0.3m程度で、底面から0.3m浮いた状態で焼土が堆積していた。1、2号溝は、前年度において確認した遺構なのでここでは割愛する。遺物は、須恵器大甕の口縁部及び2号土壙出土の土師器坏形土器を図示した。

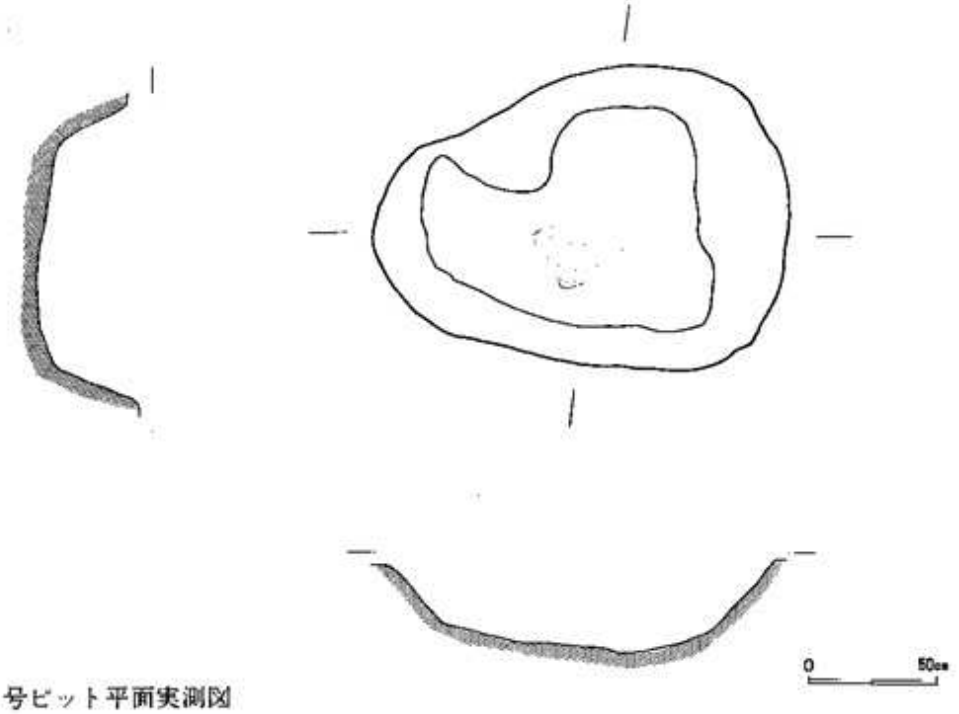
小　結　墳丘及び周溝調査からは、埋葬施設の存在は確認することができなかった。今後この周辺部の調査を実施する機会を得られたら何らかの痕跡が検出される可能性も考えられる。



第5図　菅地ノ台古墳墳丘測量図（S＝1：250）

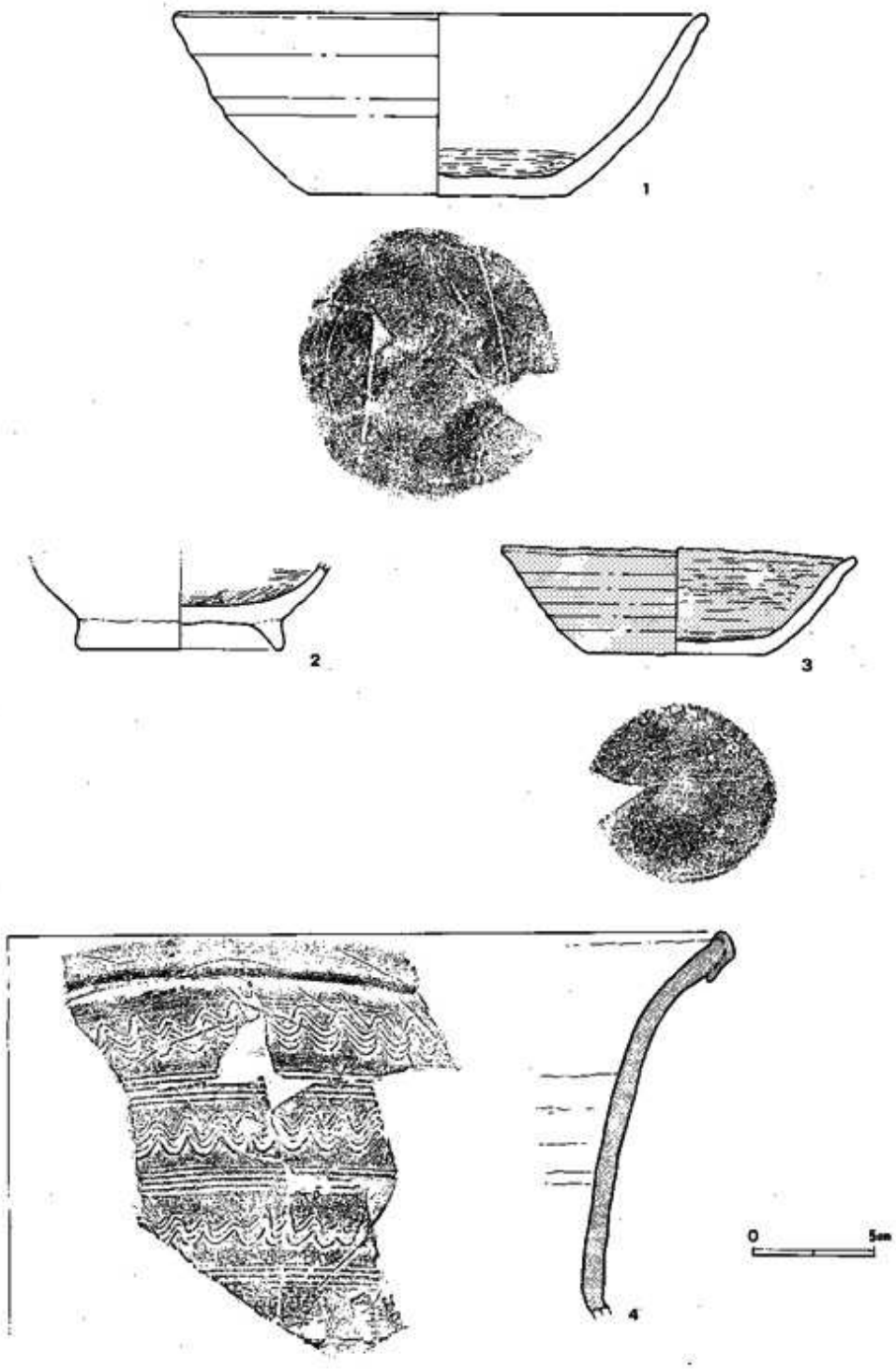


2号土坑平面実測図

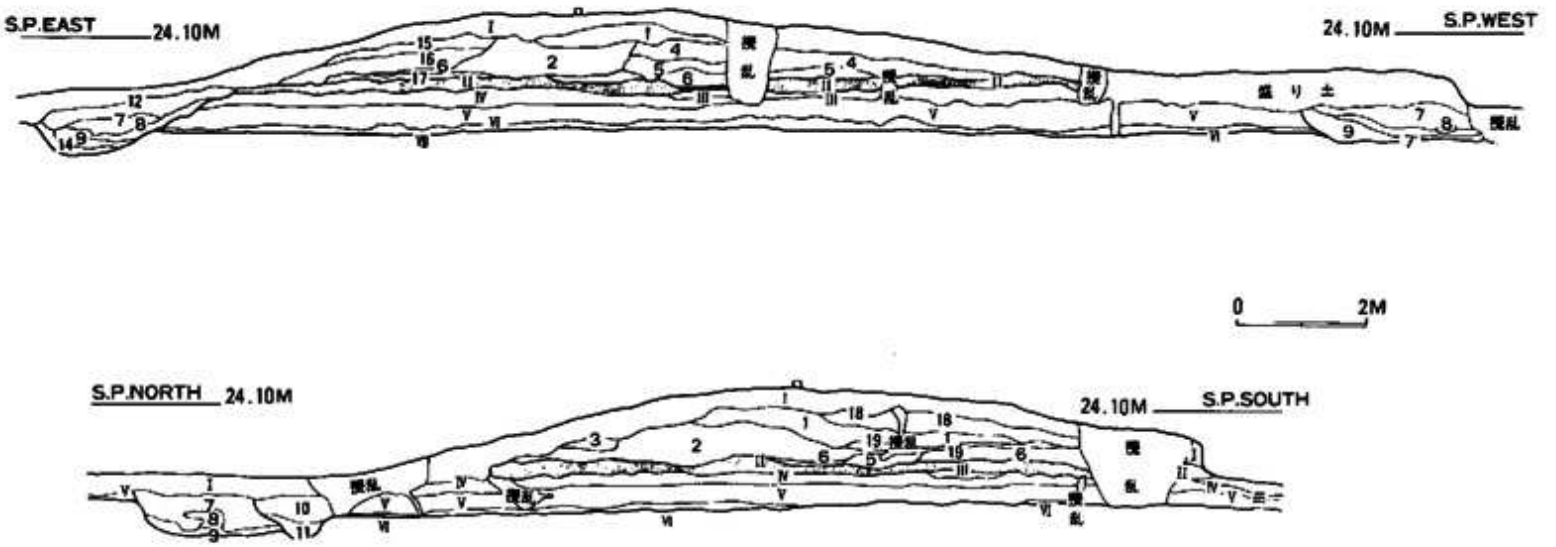


1号ピット平面実測図

第6図　遺構実測図



第7図　遺物実測図



■ 墳丘下旧表土層(II層)

土層説明

墳丘封土1～6	1.	暗褐色土(ローム粒少量含み粒子細かく、さらさらしている。)
15～19	2.	褐色土(暗褐色土主体にローム粒・黒色土粒混入、5～10cm大ロームブロック少量含む。)
	3.	暗褐色土(黒色土粒主体にローム粒少量含む。粘性なく、しまっている。)
	4.	褐色土(3層に類似、黒色土粒の割合が多い。)
	5.	黒色土(黒色土粒、ローム粒、1～2cm大ロームブロック混入、しまっている。)
	6.	褐色土(ローム粒主体、黒色土粒少量含む。)
	15.	褐色土(ローム粒主体、黒色土粒含む。)
	16.	暗褐色土(ローム粒、暗褐色土粒混合層、粒子細かくさらさら。)
	17.	暗褐色土(黒色土粒、暗褐色土粒混合層、粘性あり、しまっている。)
	18.	褐色土(ローム粒主体、暗褐色土、粘性あり、しまっている。)
	19.	褐色土(ローム粒主体、暗褐色土粒少量含む。粘性あり、しまっている。)
周溝覆土7～9	7.	黒褐色土(ローム粒少量含み、粘性あり、しまっている。)
12～14	7.	黒褐色土(7に比べローム粒の割合多し。)
	8.	明赤褐色土(焼土粒主体、暗褐色色土少量含む。)
	9.	暗褐色土(黒色土粒、ローム粒少量含、粘性あり、しまっている。)
	12.	暗褐色土(黒色土粒多くまじる、粒子細かく、若干粘性あり。)
	13.	暗褐色土(黒色土粒、ローム粒混合層、粘性あり、しまっている。)
	14.	暗褐色土(13に類似、黒色土粒斑点状に含む。)
1号溝10、11	10.	暗褐色土(黒色土粒、ローム粒混合層、ローム粒斑点状に含む、粘性あり、しまっている。)
	11.	黒色土(ローム粒、少量含む、しまっている。)

基本層序

I	暗褐色土(表土層、根による撹乱層。)
II	黒褐色土(ローム粒、斑点状に含む、粘性なく、しまっている。)
III	褐色土(ローム粒、黒色土粒混合層、粘性あまりなく、ぼそぼそする。)
IV	褐色土(新期テフラ層、暗褐色土にテフラ粒斑点状に含む、ぼそぼそ。)
V	暗褐色土(テフラ粒の割合少なし。)
VI	暗黄褐色土(ソフトローム漸移層。)
VII	赤褐ソフトローム層

第8図　墳丘土層断面図（S＝1：60）

D．菅地ノ台遺跡（第９図）

調査の経過　昭和63年12月16日～12月24日にかけて確認調査を実施し、歴史時代、古墳時代の住居跡等遺構を確認した。今回この内の二遺構について本調査を実施する機会を得られたので平成元年３月16日～同年３月21日の期間をもって調査を行った。16日、プラン確定のため表土除去17日１号住遺構調査（覆土掘り下げ）、２号住プラン確定作業後遺構調査（覆土掘り下げ）18日１号住セクション実測、床面精査後遺構全景写真撮影、２号住覆土掘り下げ、20日１号住カマド調査、２号住掘り下げ後壁面精査、セクション実測、21日２号住床面精査（柱穴、炉跡調査）、１、２号住平面実測図作製後器材撤収を行い全作業を終了した。

調査の概要　遺構の確認は、Ⅲ層上面において行った。以下１、２号住について述べる。

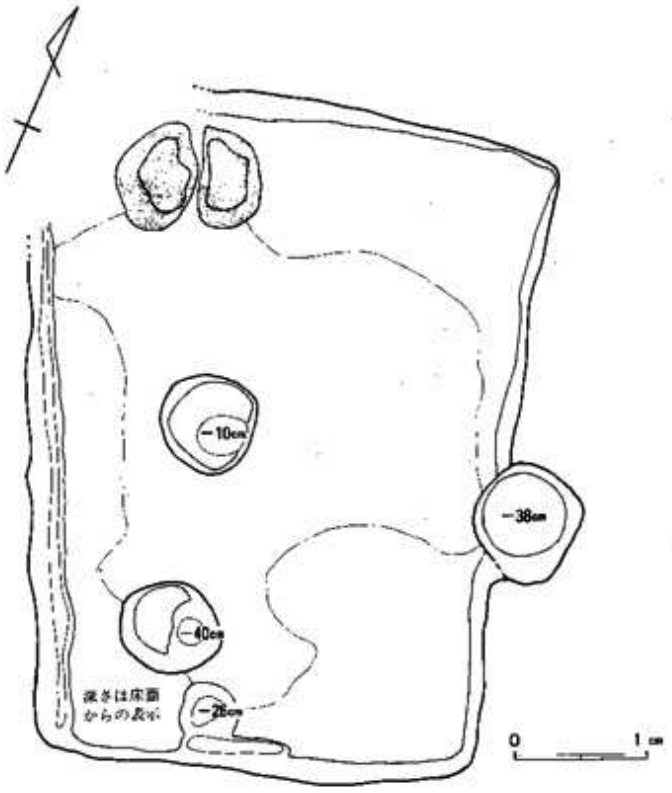
(1)１号住（第９図）

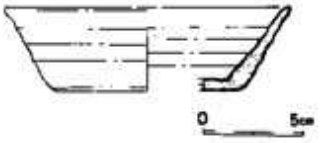
A4-９Grにおいて確認したものである。状況は、東壁中央及び住居跡内において直径0.75m程度の土坑（乃し掘り方）によって３ヵ所攪乱を受けている。時期的には、住居跡に近い覆土なので廃絶後まもなくの遺構と考える。住居跡覆土は、黒褐色土主体であるが、北壁付近においては暗褐色土（ローム粒含む）となりこの層を掘り上げた状況でプランとした。規模は、5.1m×3.7mの長方形を呈する。主軸方向はN－28°－Wである。壁高は、14～24cm程度で緩やかに立ちあがる。床面は、ソフトローム漸移層中で中央～周辺部で堅くよくしまっている。周溝は、西側及び南側一部において確認している。幅は、15cm程度で深さは17～20cm程度を測る。本跡に伴うピットは南側周溝際で確認されたもので、45cmの円形で深さは28cmを測る。カマドは、北壁中央よりやや西側において確認した。袖部は、淡褐色砂質土を使用している。煙道は、壁を切り込まずにつくられている。明瞭な火床部は確認されなかった。

(2)２号住（第９図）

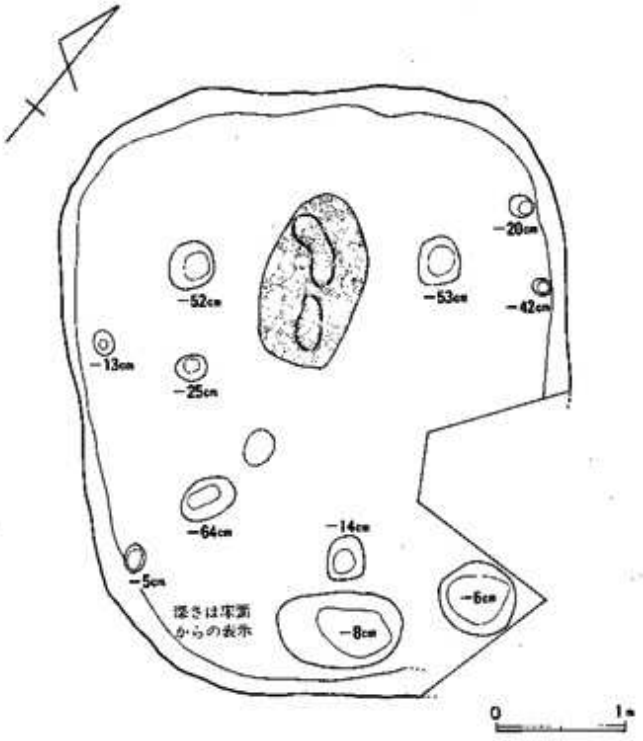
B4-3Gr において確認したものである。状況は、東コーナー部が立木において確認していないが概ね良好である。覆土は、黒褐色土を主体としている。規模は、4.7m×3.9mの隅丸長方形状を呈する。主軸方向は、N－40°－Wである。床面は、ハードローム上面でかたくよくしまっている。壁の立ちあがりは、傾斜をもって立ちあがる。確認面からの深さは、40～45cmを計測する。ピットは、主柱穴３、副柱穴１、他に小穴５、貯蔵穴(?)状の落ち込み２を確認した。周溝は確認されなかった。炉跡は、中央よりやや西の主柱穴に挟まれた位置につくられている。確認面においては、黒褐色土に焼土粒子を含んだ状況が見られたが、炉底は強く焼けよく使いこまれていた。また中央やや南寄りの位置に直径30cm程度の強く焼けた部位が見られた。

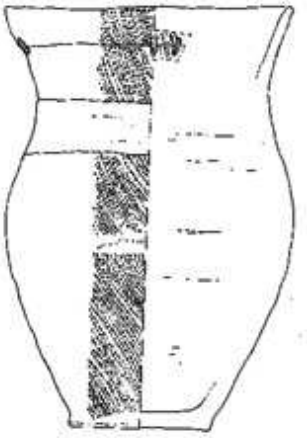
小　結　以上概略を述べたが、遺物から考えると１号住は、９世紀代、２号住は、台付甕脚部や印手系土器との関わりから古墳時代前期初頭前後と考えられる。今後本報告で明らかにしたい。





1号住　平面実測図





カーボン附着部分

2号住平面実測図

遺跡実測図

第9図　遺跡実測図

図版１　下高野新山遺跡

作業風景

作業風景

遺構確認状況（H6-12Gr）

土層断面（H8-3Gr）

遺構確認状況（J5-3Gr）

出土遺物

図版２　菅地ノ台遺跡

調査区近景

土層断面（A3-11Gr）

遺構確認状況（B3-3Gr）

１号住　全　景

２号住　全　景

２号住　出土遺物

図版３　菅地ノ台古墳

２区周溝内遺物出土状況

２区周溝全景

４区周溝全景

１号ピット全景

２号土坑遺物出土状況

２号土坑　全　景

図版４　菅地ノ台古墳

北側墳丘封土状況

西側墳丘封土状況

南側墳丘封土状況

東側墳丘封土状況

出土遺物

２号土坑出土遺物

千葉県　八千代市
市内遺跡群発掘調査報告

印刷日　1989年３月25日
発行日　1989年３月31日
発　行　　八千代市教育委員会
印　刷　　㈲吉野シーリング印刷